



大阪府主催 性の多様性を考えるセミナー報告書

# 性的マイノリティ当事者の方が 抱える困りごととは？

だれもが利用しやすい“トイレ”について  
一緒に考えてみませんか？

みんなのトイレ



令和元年 11月29日(金)14:00-16:30  
大阪市立阿倍野区民センター

大阪府人権局主催 性の多様性を考えるセミナー

## 性的マイノリティ当事者の方が抱える困りごととは？ ～だれもが利用しやすい“トイレ”について一緒に考えてみませんか～

開催日時 令和元年 11 月 29 日(金)14:00-16:30

会場 大阪市立阿倍野区民センター

参加人数 約 260 名

開催趣旨 大阪府では、「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例」を制定し、性の多様性に関する様々な取組を進めています。

本セミナーは、性的マイノリティが抱える課題の一つである「トイレ」について、当事者の困りごとや配慮事例等を学ぶことにより、課題の解決に向けた取組につなげていくことを目的に開催いたしました。

府民・事業者の皆様におかれましても、性の多様性に関する理解を深めていただき、全ての人が自分らしく生きることができる社会の実現を目指しましょう。

### 第 1 部 基調講演及び企業の先進的取組事例

1：性の多様性に関する基礎知識、  
国際的な人権の動向と人権保障からみたトイレ  
金沢大学 准教授 岩本 健良 氏

2：企業の先進的取組事例と合わせて、  
これからの公共トイレのあり方とは？  
株式会社 LIXIL 野丁場市場営業部 スペースプランニング G 日野 晶子 氏  
コマニー株式会社 製品開発部 高橋 未樹子 氏

### 第 2 部 パネル・ディスカッション

テーマ：ユニバーサルデザインとしてのトイレの未来  
コーディネーター 金沢大学 准教授 岩本 健良 氏  
パネラー 株式会社 LIXIL 野丁場市場営業部 スペースプランニング G 日野 晶子 氏  
コマニー株式会社 製品開発部 高橋 未樹子 氏  
性的マイノリティ 当事者 塩安 九十九 氏

# 第1部

基調講演及び  
企業の先進的  
取組事例

## 1: 基調講演

# 性の多様性に関する基礎知識、 国際的な人権の動向と人権保障から見たトイレ

金沢大学 准教授 岩本 健良 氏

## 1 性の多様性に関する基礎知識

性別は男と女だけと思っている方もおられるかもしれませんが、そうではありません。日本ではパスポートの性別は男と女の2種類ですが、オーストラリアやネパールなど3種類ある国もあります。

研究が進み、人間の性のあり方を下記の4要素に分け、その組み合わせとして理解する考え方が国際的に広まっています(図1)。

「**生物学的な性**」…… ある人が生物学的にオスなのかメスなのかを表す解剖学的ないし遺伝学的な性

「**性自認**」……… 自分がどのような性別であるかという認識

「**性的指向**」……… 恋愛や性愛の感情がどのような性別に向くか、向かないか

「**性表現**」……… 服装や仕草などが男性的か女性的か

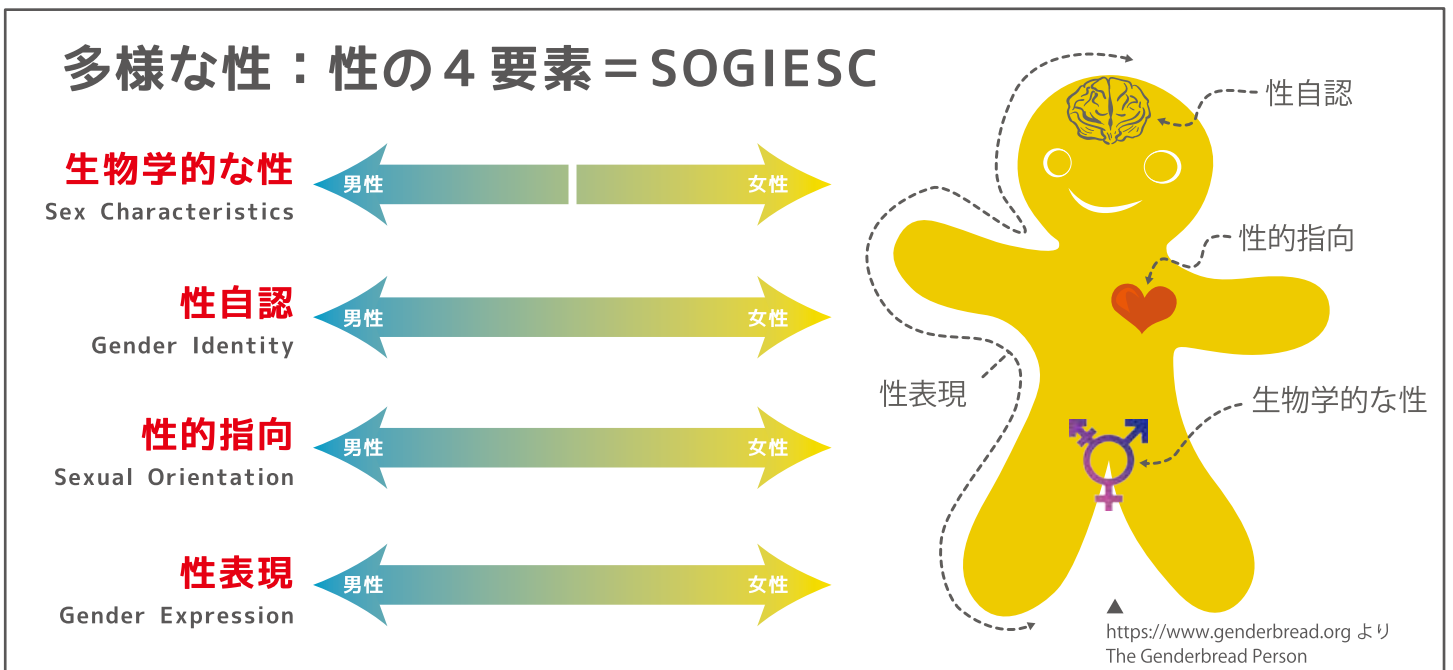


図1：性の4要素

これらの4要素はだれもが持つ属性です。性のあり方は、個人の人格の一部であり、他人から強制されたり、奪われない権利です。

4要素のうち、特に性的指向(sexual orientation)、性自認(gender identity)の頭文字をとって SOGI(ソジ)と呼びます。これらを理由とした差別をなくそうとする動きが、いま日本でも海外でも進められています。

性的指向についての少数者としてレズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)がいます。また性自認についての少数者として、出生時に付けられた性別とは異なる性自認を持つ人々(トランスジェンダー)などがいます。それぞれの頭文字をとった LGBT という用語が使われる場面もあります(図2)。

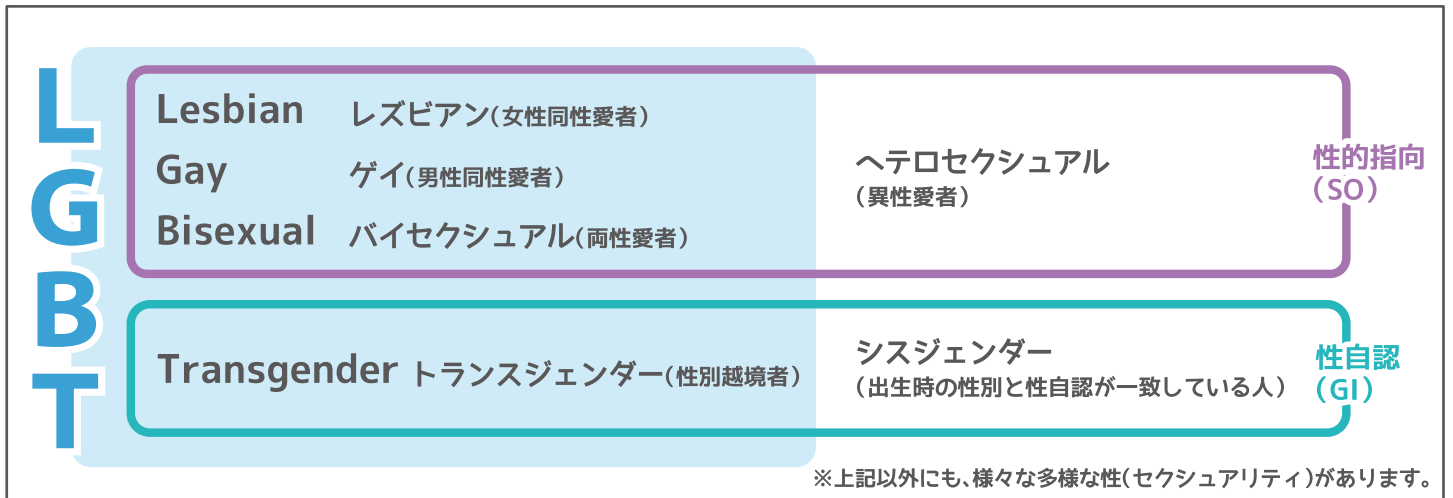


図2：LGBT と SOGI

トランスジェンダーのうち、トランス女性(MTF)は出生時に男性で性自認は女性の人、トランス男性(FTM)は出生時に女性で性自認が男性の人を指します。性自認が男性でも女性でもない、X ジェンダーの人もあります。出生時に付けられた性別と性自認が一致する、いわゆる多数派の人はシスジェンダーと呼びます。

相手や第三者をホモ、レズ、オカマ、オナベなどとからかうことは、侮蔑的な言動であり、セクシュアル・ハラスメントになります。不用意に人を傷つけないよう、常に自分の周囲に LGBT がいる前提で話すことが重要です。

2019年に釜野さおり氏他が行った「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」の結果によると、LGBTのうち「生きる価値がないと感じた」「死ねたらと思った。または、自死の可能性を考えた」人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」の2倍以上、「自殺を図った」経験のある人の割合は7倍以上でした。こうした背景には、当事者であることを周囲に隠して困っていることを相談できない、抱える困難が見えにくい、地縁や血縁にも頼りにくいことなどがあります。

「自分は当事者なんだ」と打ち明けたとき、本人が望まないのに周りの人が勝手に他者に暴露してしまう行為をアウトティングと呼びます。LGBTに対して差別や偏見のある社会では、アウトティングをされると当事者はさらに追い詰められるので、たとえ善意であったとしても許可なく他の人に漏らすことはやめましょう。

## 2 国際的な人権の動向と人権保障からみたトイレ

1990年に世界保健機関(WHO)は同性愛を精神疾患のリストから除外しました。

トランスジェンダーに関しては、これまでは精神疾患の一種として性同一性障害という診断名で扱ってきましたが、2018年に発表された最新の国際疾病分類(ICD-11)では精神疾患のリストから削除され、医療ケアを必要とする場合には gender incongruence(仮訳は性別不合)という名称が使われることになりました。それに沿って日本国内でも性同一性障害という名称の変更や法律の改正が議論されています。



かつて LGBT は社会的に逸脱した犯罪として（「逸脱モデル」）、次の時代には病気として（「医療モデル」）扱われてきましたが、現在では「社会モデル」によって、LGBT に対する人々の意識や制度、私たちが置かれている社会の側にこそ目を向け改善していこうという方向へと変わってきています。

国際的な人権動向としては、「人は誰もが生まれながらに自由で平等である」という世界人権宣言の考えを性的指向・性自認に関する事柄にも当てはめ、政府がとるべき措置を列挙した 2006 年のジョグジャカルタ原則を筆頭に、性的指向や性自認にまつわる権利を守るための議論が近年進んでいます。

2017 年に追加された、原則 35 には「衛生への権利」として、「すべての人は、性的指向、性自認、性表現、身体的特徴（体の性）に関わらず、公平で安全かつ人間としての尊厳を保つことができるトイレを利用する権利を持つ」と明記されています。

2011 年および 2014 年には国連の国際人権理事会決議でも性的指向・性自認が人権問題であることが確認され、2016 年には「性的指向と性自認を理由とする暴力と差別からの保護」が決議されました。

国連が定めた「持続可能な開発目標」SDGs における目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」や目標 6「安全な水とトイレ」に関して、特に焦点として挙げられる脆弱な人々には LGBT などの性的マイノリティも含まれると考えられます（図 3）。トイレ利用について、国連（UN-Water）は「生命と尊厳を保護し、社会的機会を生み出すもの」とし「トイレ利用は人権」とうたっています（図 4）。安心して使える衛生的なトイレがなければ学校や職場、公共の場に出かけることが困難となり、社会生活全般に支障が生じます。このことはトイレを使用しづらいトランスジェンダーにとって、いかに安心して使えるトイレを確保するかというテーマにも当てはまります。

人権と性の多様性について十分に知り、一人ひとりの尊厳を等しく尊重することで、学校・職場・地域などの場で、誰にとっても安心できる環境づくりを目指すことが重要です。



図 3：SDGs の目標 5 と目標 6 のアイコン

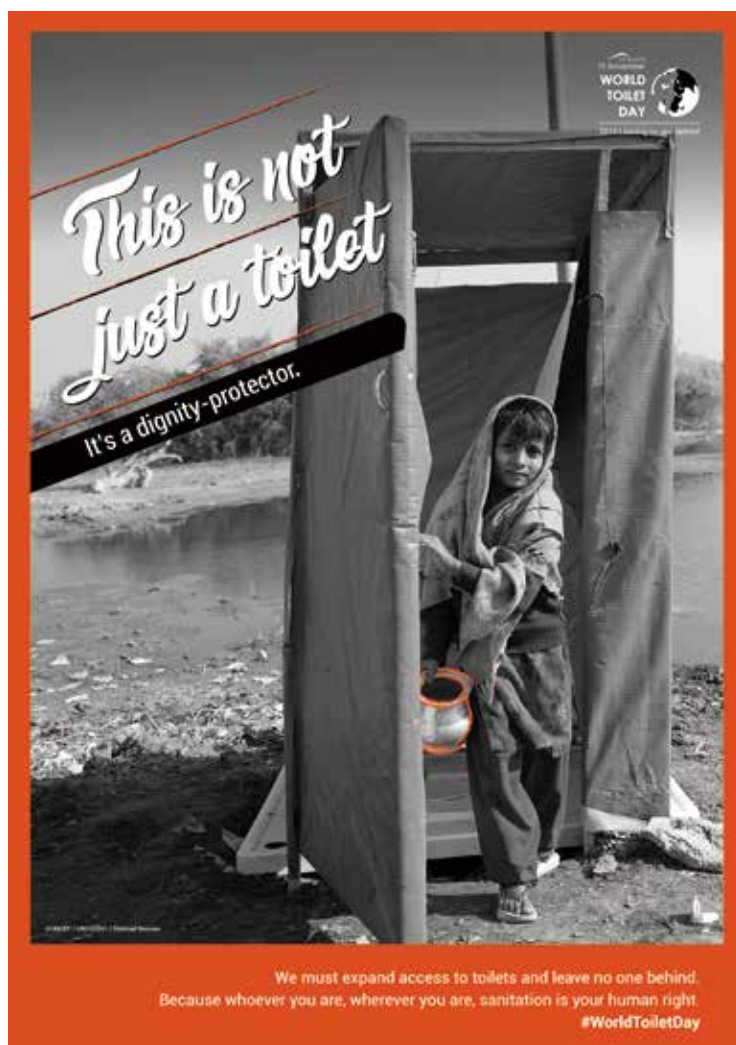


図 4：国連の「世界トイレの日」ポスター（2019 年）  
「これは単なるトイレではありません。  
尊厳を守るための設備です」

# 第1部

基調講演及び  
企業の先進的  
取組事例

## 2: 企業の先進的取組事例と合わせて、 これからの公共トイレのあり方とは？

株式会社 LIXIL 野丁場市場営業部 スペースプランニング G

日野 晶子 氏

LIXIL では、多様性の尊重の一環として、LGBT 等性的マイノリティの従業員が安心して働けるような風土づくりに取り組んでいます。トイレに関しては、「トイレへのアクセスは基本的人権のひとつ」という認識のもと、「誰もが安心して快適に利用できるパブリックトイレ空間」をめざし、調査・研究、提案を行っています。今回は、2015年にNPO法人虹色ダイバーシティと実施した、性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査(以下、調査)の結果を通して「これからの公共トイレのあり方」について考えます。

### I 調査結果から見えてきた課題

調査の結果から、トランスジェンダーのトイレ利用に関する課題が見えてきました。

#### 1 特有の困りごと・ストレスがある。

例えば、周囲の視線が気になる、他の利用者から不審な目で見られる、注意される、などです。

#### 2 「利用したいトイレ」が利用できていないケースが多い。

「利用したいトイレ」はさまざまですが、FTM、MTFの人では「性自認に沿った男女別トイレ」を利用したい人が最も多く見られました。また、性別を問わずに利用できる「だれでもトイレ」のニーズが全体的に高い傾向にある反面、その利用には気兼ねする人も多くいました。

### I だれでもトイレ(多機能トイレ)の利用集中と男女共用トイレのニーズ

ニーズが高い「だれでもトイレ」は、建築界では「多機能トイレ」と呼ばれますが、多機能であるがゆえに利用が集中してしまうという問題もあります。2011年の国土交通省の調査では、多機能トイレで待たされた経験のある車椅子使用者は9割以上にのぼり、「子ども連れや障がい者に見えない人が出てきた」「数が足りない」という声も多く寄せられました。一方、弊社の調査で「理想のトイレ」について尋ねたところ、だれでもトイレや多機能トイレに関する声が4割以上を占め、その内容は「気兼ねなく使いたい」「障がい者向けとは別に、男女共用トイレがほしい」「数を増やしてほしい」の3つに集約されました。実は、異性の子ども連れ、知的・発達障がいのある人や高齢者の異性介助などのケースで同様に感じている人も多く、車椅子使用者用トイレとは別の、男女共用で使えるトイレのニーズは一定数あるといえます。

### I 「男女共用広めトイレ」のご提案

そこで、性別を問わず、気軽に、落ち着いて利用できる広めの個室トイレとして、「男女共用広めトイレ」をご提案します(図1)。「広めトイレ」は、車椅子使用者用トイレほど広くはないが、介助者と入れる程度の広さとしします。このようなトイレを設置することで、狭いブースが苦手な人、ハンドドライヤーなど、突然鳴る大きな音が苦手な人、大きな荷物を持った人など、より多くの人々がトイレを利用しやすくなる可能性があります。

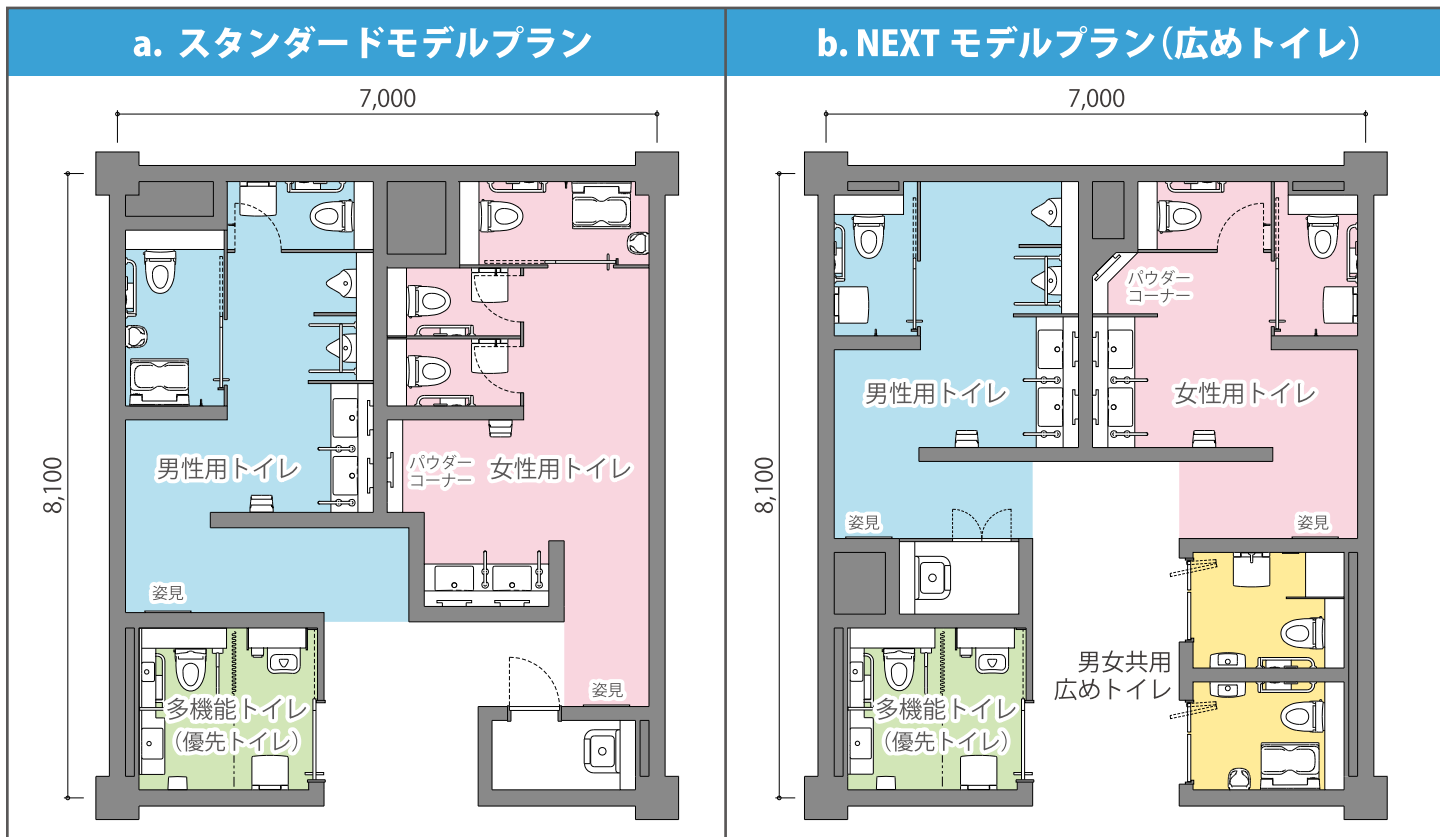


図 1. モデルプラン a. スタンダードモデルプラン…多機能トイレを設置  
 b. NEXT モデルプラン…全体の空間サイズは変えずに「男女共用広めトイレ」を 2カ所設置  
 広めトイレは、落ち着いて利用できるよう安全性はもちろん、清潔、音、ニオイ、換気など快適性に配慮した内装やしつらえとする。サイズや内部設備は、条件・状況に応じて個別に検討し、利用者は限定しない。

## 事例紹介

実際に男女共用トイレを設置した事例として、筑波大学構内にあるスーパー「カスミ」のトイレをご紹介します。このトイレは、全て手洗い付の完全個室タイプとし(図2・3)、「自分に合った個室の選択ができること」を示すコンセプト文を掲示しました。利用者アンケートを実施したところ、このようなトイレの今後の利用意向は9割程度と高評価でした。ただし、混雑を心配する声や、男性からは小便器を望む声など課題もあります。



図 2. トイレ空間全体(カスミ筑波大学店)

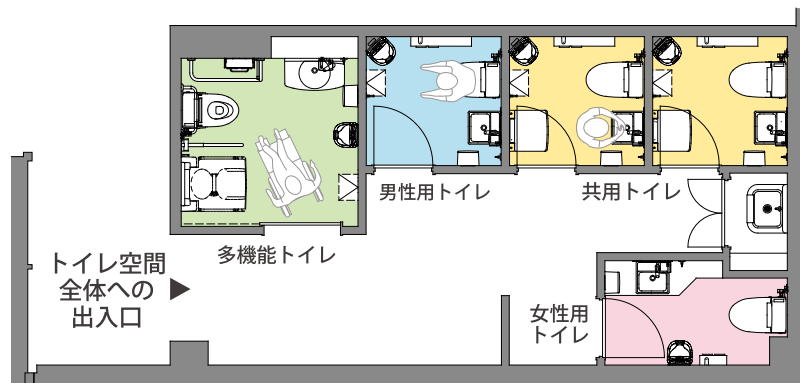


図 3. トイレレイアウト(カスミ筑波大学店)

## メーカーとしての社会的責任

誰ひとりとして取り残さない、多様性を尊重した共生社会を実現するためには、まずはお互いに知り合い、意識のバリアを取り除くことが重要です。LIXIL はこれからも研究を続け、誰もが安心して快適に利用できるインクルーシブなトイレ空間の普及を目指していきます。

## 2: 企業の先進的取組事例と合わせて、 これからの公共トイレのあり方とは？

コマニー株式会社 製品開発部

高橋 未樹子 氏

パーティションメーカー コマニーでは、人が家を一步出た瞬間から、より良く働き、より良く学び、より良く生きるための持続可能な環境づくり、人づくりに貢献することを目指しています。その活動の1つとして、金沢大学、コマニー、LIXIL で「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」を立ち上げ、ジェンダーに関わらず誰もが安心して快適に利用できるオフィストイレ環境の追求を目指しています。今回は 2017 年 10 月～11 月に行った Web 調査の結果を報告します。

### I トランスジェンダーの割合

Web アンケートモニターに登録された 18～59 歳の有職者 3 万人に対し「出生時の戸籍性別（男性／女性）」と「自認する性別（男性／どちらかといえば男性／どちらかといえば女性／女性／X ジェンダー・中性・無性など／わからない・その他／答えたくない）」を尋ねた結果、トランスジェンダー（出生時に付けられた性別と性自認が一致しない人）に該当する人は 2.0% でした。ただし、この数値はトランスジェンダーの捉え方や「自認する性別」の尋ね方などによって変わります（図 1）。なお、アンケートは「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 2016 年」に基づいた年齢別人口分布で配信しています。

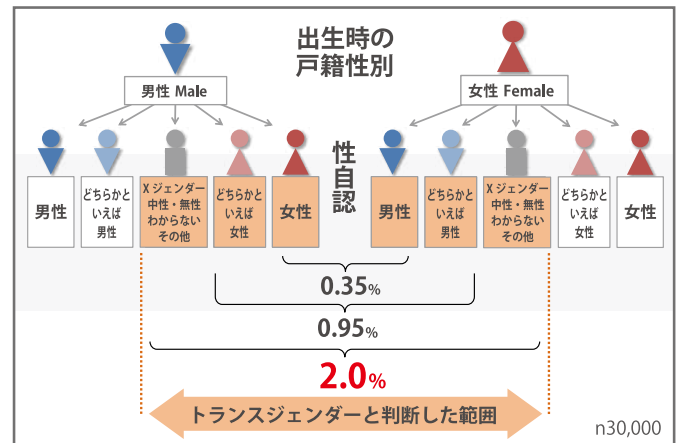


図 1: トランスジェンダーの割合  
(性自認をどこまで含めるかにより異なる)

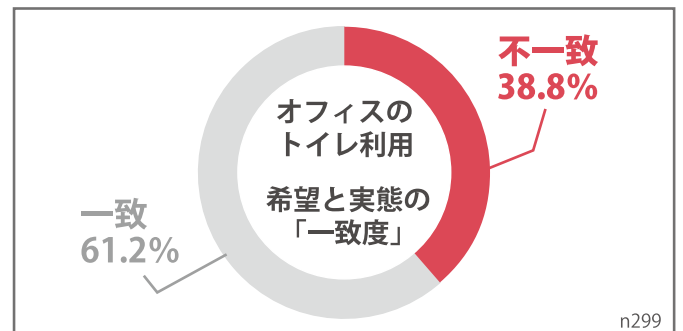


図 2: トランスジェンダーのオフィストイレ利用希望と実態の一致度

### I トランスジェンダーのオフィストイレ利用実態

同僚など顔見知り同士が利用するオフィスのトイレにおいて、利用したいトイレを利用できていないトランスジェンダーは 38.8% でした（図 2）。利用したいトイレは様々でしたが、「だれでもトイレ」や「男女共用トイレ」を利用したいと回答した人は 35.1%、特に X ジェンダーで高い傾向が見られました（図 3）。

### I 男女共用個室トイレのニーズ

だれでもトイレがオフィスには「ない・少ない」と不満を抱えるトランスジェンダーは 34.1%、シスジェンダーでも 14.9%、また、「あっても健常者は利用しづらい」と感じている人もいました（図 4）。

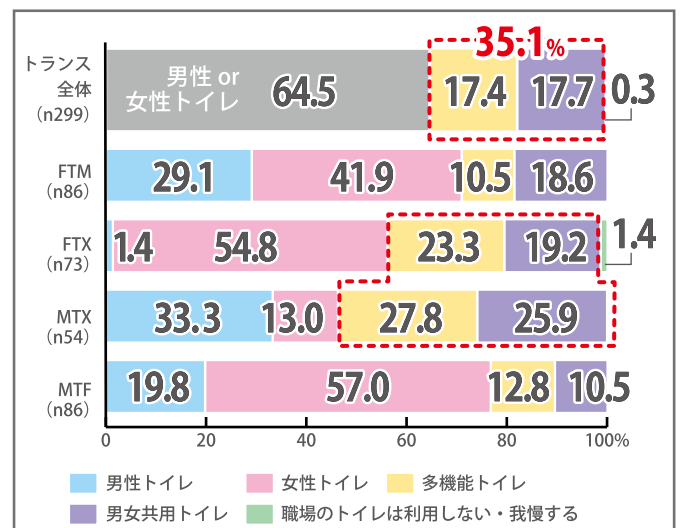


図 3: トランスジェンダーの利用したいトイレ



そこで、「男女共用個室トイレ」がオフィスにあった場合の利用意向について調査を行いました。トランスジェンダーはどのジェンダー（FTM・FTX・MTX・MTF）でも7割以上、シスジェンダー男性も約7割が「利用すると思う」と回答しましたが、シスジェンダー女性は、異性と同じトイレを利用することへの抵抗から5割未満でした。トランスジェンダーでも男女共用個室トイレを「利用しない」との回答が2割弱ありました（図5）。その理由には「性的マイノリティではないかと思われる」など周りの目を気にする回答があり、男女共用個室トイレが特別なものになると利用しづらくなることが分かりました。

男女共用個室トイレを利用する条件を尋ねると、シスジェンダー、トランスジェンダー共に、清潔であることに加え、「広めであること」が挙げられました。より多くの人々が利用しやすい男女共用個室トイレにするためには、清潔で、かつ“少し広めであること”が重要だと考えられます。

## 1 シスジェンダーの意識

トランスジェンダーがオフィスで自認する性別のトイレを利用できない理由として、「嫌がる人がいた」など周囲との関係によるものがありました。そこで、トランスジェンダーが自認する性別のトイレを利用することについて、シスジェンダーがどのように思っているかを調査しました。結果、男女共に6割以上が「抵抗はない」と回答しました。「抵抗がある」と回答した人に理由を尋ねると、その多くが「なんとなく」、「身近にトランスジェンダーがいないので」という、「知らない」ときに起因するものでした（図6）。

以上の調査結果から考えると、トランスジェンダー含めて誰もが利用しやすいオフィストイレ環境の実現には、下記のポイントを考慮してハード・ソフトどちらも合わせて対応することが重要だと考えられます。

- ①男女別トイレ、男女共用トイレなどの選択肢を設け、かつ選択できる環境を整えること
- ②研修などの啓発活動により「知らない」ことによる性的マイノリティへの偏見をなくすこと

\* 詳細は研究会サイトの調査報告書をご覧ください。 <http://iwamoto.w3.kanazawa-u.ac.jp/allgender.html>

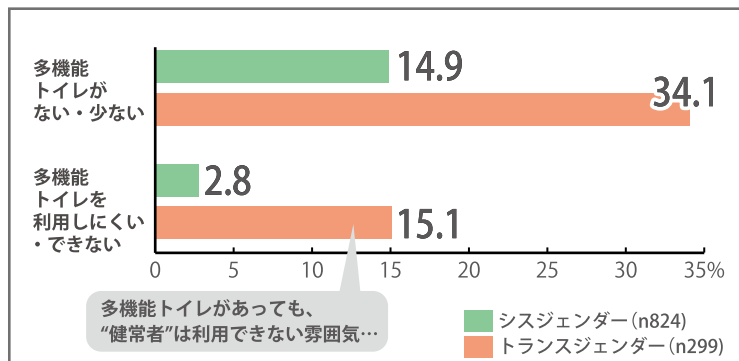


図4：多機能トイレに関するストレス（※複数回答）

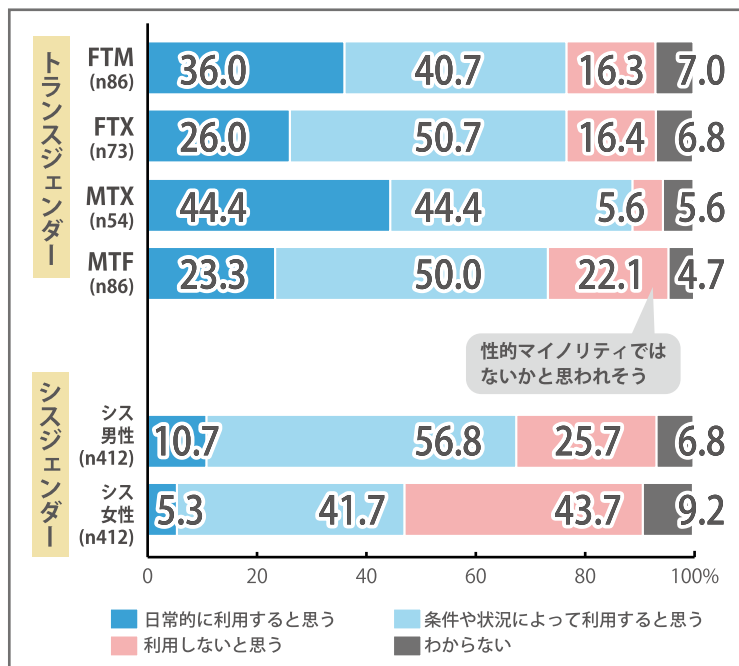


図5：オフィスに「男女共用個室トイレ」があった場合の利用意向

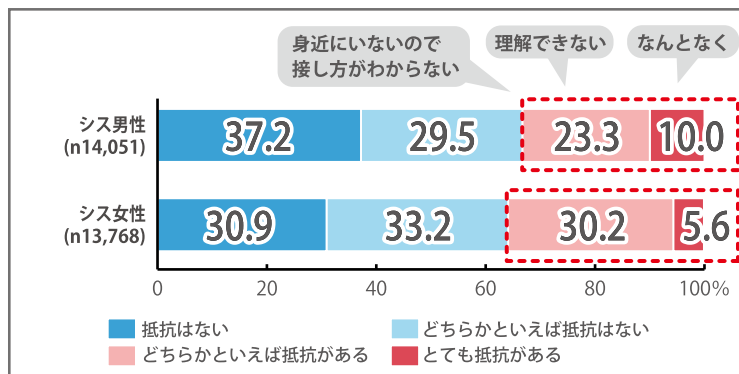


図6：トランスジェンダーが自認する性別でトイレを利用することについて

## 第2部

ユニバーサル  
デザインとしての  
トイレの未来

# 性的マイノリティ当事者も使い易い トイレの整備に向けて

性的マイノリティ 当事者

塩安 九十九 氏

トイレで困ることや、カナダに住んでいた経験から、カナダのトイレ事情、性自認によるトイレの使用について話しました。もっとも重要な話の一つは、ハラスメントを許さないということです。どんな外見の人でも安全に安心してトイレを使えることが重要です。「そんな格好をしていたからだ」と責められることはおかしい。それは今まで女性たちが主張してきたことと一致しています。トランスジェンダーや性別が曖昧な人へのハラスメントを許さないトイレ、それは、女性にとっても安全なトイレです。

### 01 LGBTQ注)の困っていること

ジロジロ見られたり、  
注意されたりするので、  
トイレを使うのが恥ずかしいし  
**居心地が悪い。**

トイレに行きたく  
ならないよう  
水分を控えるため  
**脱水症状**に  
なりやすい。

他の利用者から注意されたり、  
**痴漢と思われたり**しないか不安。

トイレに行けず  
我慢するために  
**膀胱炎**などに  
なりやすい。

障がい者用トイレを使うと  
「健常者なのに  
なぜ使っているのか」と  
疑問視されたり、  
障がい者の方に  
**気兼ね**して  
利用しづらい。

会社や学校などで  
カミングアウトした後、  
トイレの利用をめぐり、  
周囲から**嫌がらせ**や  
**無理解**な反応を  
受けることがある。  
公共のトイレとは  
違った問題がある。

出生時の性別がバレたら  
どうしようという不安。  
そのことで暴力や  
ハラスメントにあたり、  
**警察に通報されるかも**  
しれないという恐怖。

トイレに  
行けないために、  
**不登校**に  
なることもある。

※「性的マイノリティのトイレ問題に関する  
WEB調査 2015 (LIXIL、虹色ダイバーシティ)より」

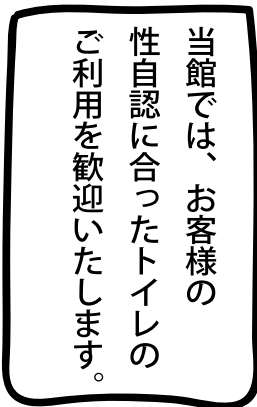
**排せつ、トイレへのアクセスは人権です**  
国連も重要課題の一つとして取り組んでいます

注)Qは、クエスチョナー、もしくはクィア。クエスチョナーは自身の性的指向や性自認を考え中の人、クィアは、変態、風変わりな人という意味。性的マイノリティは変態だと差別されていたことを逆手に取り、「それでなにが悪いのか、自分たちを肯定的に捉えよう」と、クィアという言葉を使うようになりました。LGBTQと続けて表現する場合は、LGBT以外にも多様な性があることを示すために使われます。

## 02 海外で見かけたトイレいろいろ

※セミナー当日の写真をイメージ化したものです。 訳：塩安九十九

### クイーンズ美術館 (ニューヨーク)



2016年頃に騒動となった、出生時に割り付けられた性とは違う性のトイレを使うことを禁止した法律に対する抗議としてこのような掲示がされている。

### ジョージブラウン大学 (トロント)



トランスジェンダー当事者による、自分たちの現状を知らせるキャンペーン。男女別トイレ、多機能トイレ内に掲示されている。

### ハンバー大学 (トロント)



性自認に基づいたトイレ使用の尊重を啓発するポスター。大学内の全てのトイレに掲示されている。

### ガトウィック空港 (ロンドン)



目に見えない障がいがあることを明記して、多機能トイレは様々な人が利用することを伝えている。

## 03 啓発ポスターを作るなら?

※塩安案

### 多機能トイレ内では

**もれるー!**

『だれでもトイレ』が必要な人たちにご配慮下さい。

例えば...

身体障がいのある人  
男女に分かれていたトイレに入るのが苦痛な人  
オストメイトや見た目ではわからない障がいのある人  
子連れ、夫婦、高齢者の付き添いや介助者が異性の場合

**トイレの目的外の使用や長時間の利用はご遠慮下さい。**

- 1) 健常者に対して、ここしか使えない人のために目的外使用や長時間の利用を控えるよう呼びかける。
- 2) 全ての利用者に対して、男女に分かれたトイレが使えない人もいることを知らせる。

### 男女別トイレ内では

トイレで違う性別の人を見かけることがあるかもしれませんが、そういうこともあります。

例えば

親子、夫婦の付き添い  
視覚障がい、知的障がい、高齢者の方の異性介助者  
典型的な男女の枠にはまらない人  
自分の意志に反してなぜか異性に間違われる人

誰もがトイレを気兼ねなく使えるような様々な立場の人がいることを知りましょう。ハラスメントや迷惑行為をしていない限りスルーしましょう。

- 1) 同性異性に関わらず、誰に対するハラスメントも禁止。
- 2) 見た目がトイレ表示に一致していない人を見かけても、凝視したり指摘しなくてよい。
- 3) トイレは、排せつする場所。見た目や障がいに関わらず、安心して安全に排せつできるような環境作りに協力してほしい。



## 第2部

### ユニバーサル デザインとしての トイレの未来

パネルディスカッション

テーマ：ユニバーサルデザインとしてのトイレの未来

コーディネーター：金沢大学 准教授

パネラー：コマニー株式会社 製品開発部

株式会社 LIXIL 野丁場市場営業部スペースプランニングG

性的マイノリティ 当事者

岩本 健良 氏

高橋 未樹子 氏

日野 晶子 氏

塩安 九十九 氏

パネルディスカッションの前に、よく質問のあるトイレのサインについて、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」の調査をもとに解説しました。(高橋氏)

### 特別なサインは必要なく「みんなが使っていていい」と書くだけでよい

一般的に使われている「男子は青、女子は赤でスカートを履いたサイン」を男女共用トイレに使う場合、形や色を変えた方がよいかを尋ねると、「特に変えなくていい」という回答がシスジェンダー、トランスジェンダーともに一番多くなっています。しかし、形や色を変えた方がいいと思っているトランスジェンダーもそれぞれ2割程度います(図1)。

また、多機能トイレに付けられることがある、虹色のサインや男性と女性のピクトグラムを半分合わせたサイン(図2)についても、8名のトランスジェンダーの方に意見を聞きました。「遠慮なく使えてよい」、「気にしない」という意見もある一方、「配慮しています感が全面にでるとかえって使いづらい」という声もありました。特に男女半々のサインに関しては「男性と女性の半分じゃない」と強い抵抗を示す声がありました。利用しやすくするためには、「トランスジェンダー配慮をサインで打ち出す必要はなく、だれもが使えることが示されているだけでいい」という意見があがりました。

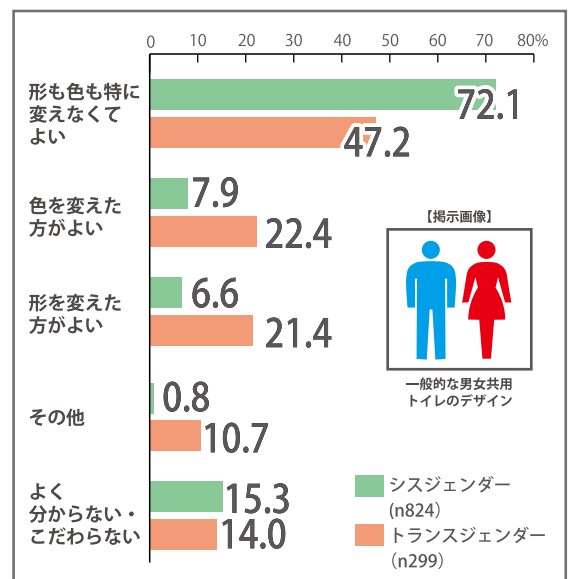


図1：一般的な男女共用トイレのサインについてどう思いますか？(※複数回答)



図2：虹色のサインや、男女を半分ずつ合わせたサイン

### サインの色や形は、施設の公共性や、 どういう方が利用するかに合わせて、決めましょう

「多機能トイレは車椅子専用のような気がして、利用しづらい」という意見もありますが、決して「車椅子専用」ではありません。困っている人は誰でも利用して下さい。ただ、あくまでも排せつをする場所なので、次の利用者のことを考えて用が終わったらさっさと出るように心がけてください。

また、トイレのサインの色や形を変えた方がよいという意見もありますが、サインで最も大切なことは、誰もがすぐにトイレのある場所を見つけられる、ということです。例えば、不特定多数の人が利用する商業施設でトイレのサインをモノクロにしたら、トイレを見つけられずに探す人が増えて、再度、青と赤のサインに戻したという事例も実際にあります。その施設の公共性やこういった人が利用するのかを考え、サインを決めることが大切です。

パネルディスカッションは、会場から多くの質問がでたため、それに答える形で進めました。

## ▶多機能トイレのあり方について／誰でもトイレの障がい者に見えない方の利用について

### Q

職場に、男女別で多機能トイレがあるが、誰でも使えるがゆえに、いつも特定の人が使っていて、当事者である自分はなかなか使えません。「誰でも使える」というのが悪く働いていると思うのですがいかがですか？

### A

**ハード整備だけでなく、みなさん自身もトイレを使う当事者の一人としてマナーを守ることが大切**

多機能トイレのあり方は本当に難しいですが、困っている人は使っていただいたらよいと思います。また、いつも使っている特定の人が見た目ではわからない障がいをお持ちかもしれません。

しかし、公共トイレ、職場のトイレの利用状況を調べてみると、ケータイでゲームをしたり、お化粧をしたり、トイレ以外の目的で使う人も多くいました。みなさん自身もトイレを利用する当事者の一人として、マナーについても考えて頂けるとよいのではないかと思います。(高橋氏)

### Q

「健常者が使っているという苦情」には、内部障がい者も使っていることが理解されていない現状がある。ユーザーの声や、障がい者に見えない方がどの程度使っているのかを調べた調査はありますか？

### A

**障がい者に見えない方がいることなどを知るソフト面の啓発は非常に重要**

数字まではわかりませんが、代表的な例はオストメイト<sup>注</sup>の方です。高齢の方の割合が高いですが、若い方の場合には特に、「若くて健康そうなのに、なぜ使うの？」と言われても、オストメイトであることを言いたくないかもしれません。また、弊社の「性的マイノリティのトイレ問題に関する調査」では、清掃担当の方に注意されたという声も多く、男女別トイレに入りづらい人もいることを、清掃に携わる方にもぜひ知ってほしいです。知っているか否かの違いは大きいと思います。(日野氏)

注)オストメイト：人工膀胱や人工肛門を腹部に造設している人のこと

## ▶更衣室の利用に係る問題について

### Q

LIXILでは、更衣室に関してはどのように運用されていますか？

### A

**本人の希望を聞き、個別に対応することも重要  
着替えを見られたくない人への配慮**

本人の希望や状況によって対応は異なると思いますが、弊社では、空き個室を利用して更衣室にしたり、他の従業員と同様に自認する性別の更衣室を使用したりといった例があります。

また、ある事業所では、女性同士でも他人に着替え姿を見られるのは恥ずかしいという声があったことから、女性用更衣室の一角にパーテーションを設置した例もあります。これは、トランスジェンダーかどうかは関係なく、着替え時に見られたくない人向けの配慮ですが、特別なことでなくても、このようにちょっとした工夫でさまざまな人が利用しやすい環境を作ることできると思います。(日野氏)

# まとめ



## トランスジェンダーの人が求めているのは、 「普通にトイレを使いたい」というだけのこと

- トランスジェンダーの人たちは、トイレすることだけに限らず困っています。公共や職場のトイレで、トイレのサインと性別が違うと思うような人と出会ったとしても、その人がハラスメントや迷惑行為をしていない限りは、なにもなかったかのようにふるまってほしい。  
また、本日聞いたことを、ご家族や友達、会社の人に、伝えていただきたい。そのことで、皆さんがトイレを使うときに「あっ」と思い出すことができ、そこから行動することができます。それが、社会が変わる一歩です。(塩安氏)
- だれもが、トイレを落ち着いて、安全、安心に利用したいのです。それをお互い大事にするという基本をこのセミナーの場で共有したいと思います。(岩本氏)



## いろんな方が集まってソフト面の話をしていくことが大事

- このセミナーは性の多様性を考えることがテーマなのでトランスジェンダーのことを中心に話してきましたが、トイレに関しては、車椅子の方や視覚障がいのある方など困っている方がまだまだいます。  
車椅子の方、その他の障がいのある方、高齢の方、子ども連れの方など様々な方が集まり、ハード面だけでなくソフト面も一緒に考えていくことが大事なのではないかと思います。(高橋氏)
- 自分とは違う人のことは、気が付かない、想像もつかないことも多くありますが、本日のセミナーをきっかけに、どういう人が困っているか、なぜ施設のトイレにこのように種類が必要なのか、周りの人とシェアしていただければと思います。(岩本氏)



## トイレ改修の費用とスペースがなくてもできるのは、 意識を変えること

- よく共感という言葉を使いますが、実際は共感できないこともあると思います。しかし、共感できるか否かに関わらず、人権は守られなくてははいけません。そこで、「意識を変えること」が重要だと思います。意識を変えるには、お互いを知ることが大切です。お互いを知ることによって、同じところや違うところがわかり、相手の立場に立って想像することができると思います。それが、お互いを尊重することにつながるのではないのでしょうか。ぜひ、この場でのことも広げていただきたいです。学校の話も出ましたが、性自認や性的指向の話をしてもいいと思います。子どもには早いというご意見もあると思いますが、そういう教育もとても大事だと思います。(日野氏)
- 2020年春から小学校の保健の一部の教科書では、「心の性と体の性が違って困っている人が友達にいます」という内容が載ります。性教育は思春期からという人もいますが、早い場合では、小学校に入る前から性別の悩みを抱えている人たちもいます。小学校の段階から、しっかり取組んでほしい課題です。(岩本氏)
- 本日、これだけ大勢の方にお越しいただき、大変感謝しています。単に頭の中で理解するのではなく、自宅で、職場で、学校で話す、あるいは会社で施設のリノベーションがあるときはこの話を出して、いろんなアクションにつなげてほしいと思います。それが、私たちの社会をよりよくすることにつながります。(岩本氏)

## 用語解説

<b>性同一性障害</b>	トランスジェンダーの中で、性別の違和感が非常に強い人に対して、精神科医が診断書などに記載する「診断名」。診断書は医療的処置を行うために必要とされる。
<b>Xジェンダー</b>	エックス・ジェンダー(X-gender) 出生時に付けられた性別*にかかわらず、性自認が男性／女性に二分できない人、男女の枠にとらわれない性のあり方の人。 *出生時に主に外性器から判断され、戸籍や出生届に記載される。
<b>FTM</b>	Female To Male の略語。 出生時に付けられた性別は女性(Female)で、性自認(心の性別)は男性(Male)の人。トランス男性ともいう。
<b>MTF</b>	Male To Female の略語。 出生時に付けられた性別は男性(Male)で、性自認(心の性別)は女性(Female)の人。トランス女性ともいう。
<b>FTX</b>	Female To X-gender の略語。 出生時に付けられた性別は女性で、性自認は X ジェンダーの人。
<b>MTX</b>	Male To X-gender の略語。 出生時に付けられた性別は男性で、性自認は X ジェンダーの人。

【参考】「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」2018 用語解説

### セミナー参加者の声(アンケートより抜粋)

- LGBTの方々のサポートに携わりたい。(20代、民間企業)
- 会社で勉強会やLGBTについてセミナーを開催するので、今日学んだことを少し盛り込みます。(20代、民間企業)
- 社内啓発に活用したい。(40代、民間企業)
- 友人の教員も知りたいということなので、提案したいとおもいます。ただ、学校内だとまた違う点も必要かと思いましたが。今日のことを含め、性の多様性について、まとめて発信できればいいなと思っています。(40代、民間企業)
- すでに取組んでおり、さらに取組を推進していきます。(60代、民間企業)
- 小学校に勤務しています。誰もが安心して使えるトイレのあり方について、性の多様性の観点からの教育とともに、トイレは排せつの時にのみつかう、というマナーについても教育していきたいです。(30代、学校関係)
- 児童生徒への教育(想像力を豊かに視野を広くもてるような内容)。(30代、学校関係)
- 引き続きよく考えたい。(50代、行政関係)
- トランスジェンダーが自認の性別トイレを使うことについて、なぜシスジェンダーの約30%が拒否感を持っているのかをサークルで考え、啓発したい。(20代、学生)
- 今までの取組を継続して、みんなを取組んでいく。(その他)



大阪府府民文化部人権局 令和2(2020)年3月発行  
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)38階  
TEL (06) 6210-9281 FAX (06) 6210-9286  
大阪府人権局ホームページ [http://www.pref.osaka.lg.jp/s\\_jinken/](http://www.pref.osaka.lg.jp/s_jinken/)

---

協力：NPO 法人 **QWRC** (Queer & Women's Resource Center) <http://www.qwrc.org>